

部活動などの活躍

令和三年度計算コンテスト満点賞

〇〇 〇〇さん(3-4)、〇〇 〇〇さん(2-2)、
〇〇 〇〇さん(1-1)、〇〇 〇〇さん(1-1)、〇〇 〇〇さん(1-4)

《バレーボール部》

荒川区夏季大会 兼 総合体育大会
準優勝



《パソコン部》

第21回毎日パソコン入力コンクール6月大会
第5部和文A中学生部門入賞
3年生

2年生

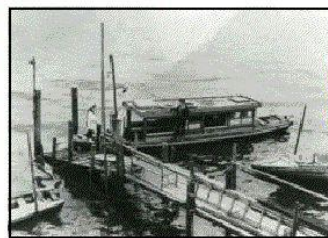
第2部ローマ字部門入賞
1年生

南千住マイスターのコーナー

隅田川には江戸時代から多くの「渡し」がありました。徳川家康が江戸に入ってから、江戸の町は大きく発展しました。市街地を南北に分断する隅田川でしたが、防備上の理由から橋を架けることは制限されていました。そこで人々が利用したのが「渡し」です。特に南千住地域にはたくさんありました。下流から現・白髭橋のあたりに「橋場の渡し」、水神大橋あたりの「水神の渡し」、汐入大橋には「汐入の渡し」、そして千住大橋架橋とともに姿を消したとされる「渡裸(むら)の渡し」と続きます。

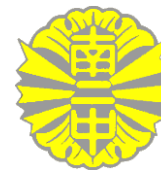
どの渡しも時代を経て近くに橋ができるとその役割を終えました。その中で「橋場の渡し」は記録に残る隅田川の渡しとしては最も古い渡しで、奥州、総州への古道があり、伊勢物語で主人公の在原業平が渡ったのもこの渡しとされています。また、源頼朝が挙兵してこの地に入る際に、歴史上隅田川に最初に架橋した「船橋」もこの場所とされ、「橋場」という名が残ったとも伝えられています。橋場は風流な場所とされ、大名や豪商の屋敷、有名な料亭などもあったといわれています。特に著名な「三条実美」の別荘である「對鶴荘(たいおそう)」も橋場の渡しの西岸にありました。

反対に隅田川で一番最近まで利用されていた渡しは「汐入の渡し」です。南千住地域には大きな紡績工場がありました。現・南千住八丁目には「東京紡績橋場工場」がありました。東京紡績は尼崎紡績と合併し、大日本紡績として時を経て現在のユニチカへとなりました。そして対岸には「鐘淵(かねがら)紡績会社」がありました。そうです、あの「カネボウ」です。汐入の渡しは、1967(昭和42)年まで、汐入と対岸の鐘淵紡績会社を結び、工員さんたちの通勤用として運行されていました。南千住は、明治から昭和にかけて、近代工業発展の地でもあり、日本の大きな紡績会社にとっては、そのスタートの地でもあったのです。



隅田川最後の渡し
汐入の渡し

南千住の交通と産業 その4 『隅田川の渡しと紡績工場』



学校だより
令和三年七月
第118号
荒川区立南千住第二中学校

大谷選手活躍の舞台裏



ナンちゃん・ニーくん

校長 松田 公好



「子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず。」
「これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」

これは孔子(中国春秋時代の思想家)の「論語」の一文で、「あることを良く知っている(知識のある)人であっても、そのことを本当に好きな人にはかなわない」「そのことを本当に好きな人であっても、そのことを心から楽しむ人にはかなわない」という意味です。

先日の放送朝礼の校長講話で私は全校生徒にこの一文を紹介し、今アメリカの大リーグで大活躍の野球選手、大谷翔平さんは正にこれを実践しているのだという話をしました。何事でも、心から楽しめるようになったら素敵なお話です。話の最後にそのためのちょっとしたコツも付け加えました。それは「何事も楽しむとうていみなさい」ということです。同じことをする場合でも、その中に楽しみを見出して楽しみながらやるのとイヤイヤやるのでは雲泥の差が出ます。実は私自身、10年以上前からこれを意識するようになってずいぶん気持ちに余裕がもてるようになり、とても楽になりました。

大谷選手にまつわる話でもう一つ注目しているものがあります。

それは彼がときどき見せる「落ちていたゴミを拾う」という行為についてです。試合中、四球(フォアボール)を選んで一塁に向かう途中、落ちていたゴミを拾ってユニフォームのお尻のポケットに入れる様子が放映されたことがあります。この道徳的な行為を自然に行う様子を見て、アメリカでは賞賛と驚きの声が上がったようです。私は当初この行為は「気づき、考え、実行する」というJRCの態度目標につながるものだと思っていました。しかし先日、もっと別な意味もあったことを知り、さらに共感を覚えたのでご紹介します。

大谷選手は高校生のころからしっかりした目標をもって野球に取り組んでいました。そしてその目標を達成するために「何をすべきか」「どんなことが大切なのか」を自分なりに分析して常に心がけていたようです。まず大きな目標を立て、これを達成するため小さな目標を立てます。そしてその目標達成に必要な要素を分析していました。

面白いと感じたのは、コントロールや球速、精神面の強さなどの目標達成の様々な要素の中に「運」を挙げていたところでした。目標達成には技術面以外に「運」も必要なのだ、という考えです。そして彼がゴミを拾う理由を尋ねられて語ったのは…

「誰かがポイと捨てた運を拾っているんです。」

なんてポジティブで素敵な考え方でしょ！
私もこれを実践しようと決意しました。

1年生 校内地域めぐり



毎年1年生は各クラス5班に分かれて、南千住地域の史跡や神社・仏閣を実際に見学する「地域めぐり」を行っていましたが、今年は感染症対策のため校外学習が中止となりました。そこで、3年生が昨年度に制作した“南千住の見どころ紹介動画”を総合の時間を利用して各クラスごとに視聴し南千住地域の史跡・名所について学習しました。動画では、素盞雄神社、円通寺、回向院、延命寺、浄閑寺、日枝神社などの寺社・仏閣やコツ通り、米倉屋敷跡の天王公園、東京球場跡地にできた荒川総合スポーツセンター、かつて千住製絨所を取り巻いていた赤レンガ塀、千住大橋などの全部で36ヶ所の場所やテーマを紹介。クイズ形式をとり入れたり、コント、寸劇を交えてその場所で起こった出来事や当時を再現したり、さらにはパワーポイントを駆使して紙芝居風に歴史などを紹介するなど、これまでに南千住の歴史や文化を学んできた知識を活かして、工夫を凝らした演出や構成でわかりやすく楽しく学べる動画ばかりです。まさに見どころ満載の紹介動画に1年生はほとんど集中して、ときには笑いときには“なるほど”と感心して視聴していました。事後学習として、全員で3年生への礼状を書き、感謝を伝えました。3学年が一堂に会する機会もない中、1年生には面白くて優しい、たいへん頼りがいのある先輩として3年生を身近に感じることもできました。動画の視聴を通して、これまで何気なく毎日通り過ぎていた景色の中に、長い歴史や文化があることを知って、南千住の街がさらに好きになり、地域に対する誇りを高めることができました。3年生の皆さん、ありがとうございました。

3年生がつくった 南千住の見どころ満載の紹介動画

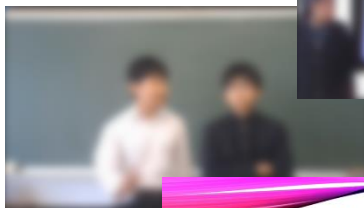
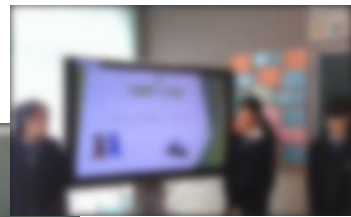
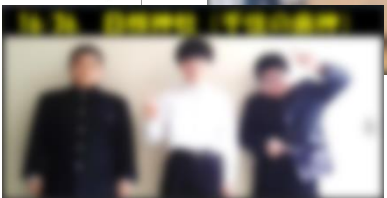
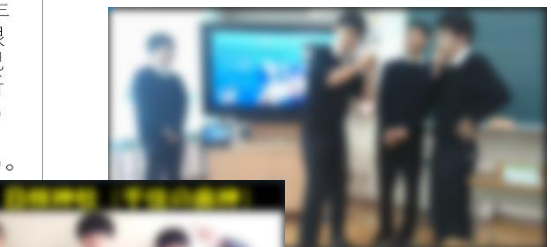


樹齢500～600年といわれる大銀杏のほか、幼児の無事成長を祈願したと伝わる「子育ての銀杏」などがある。

・千住大橋は、隅田川の東京都区部に架かる橋で、国道4号(日光街道)を通します。



南千住の見所紹介動画 by 令和2年度2学年



ここでクイズです！！！！！！

- 【第1問】
・千住大橋は隅田川に架かる橋の中で何番目に造られた橋でしょうか？
1. 3番目の橋
 2. 4番目の橋
 3. 1番目の橋



2年生 校内勤労体験

ただ今仕事中！ ～新聞記者の場合～

毎日会社からの連絡をチェック！



アポを入れて、取材と撮影



記事の作成・編集会議



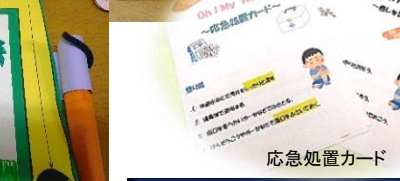
ツアコンのプレゼンテーション



6月28日に採用が決まり、2年生の校内勤労体験が本格的に始まりました。校内ではありますが、毎朝採用先の会社からの連絡をチェックして、各企業に出勤して、会議や打ち合わせに参加し、仕事の進捗状況などを報告します。締切日までに完成させる仕事は業種によって異なり、**作家は小説の作成、新聞記者は新聞の発行、デザイナーは南二中のシンボルマーク作り、漫画家は4コマ漫画の作成、栄養士は新メニューの考案、保育士は子どものおもちゃの考案、教材編集者は授業で使える教材開発、看護師は応急処置カード作り、ゲームクリエイターは南二中を題材にしたゲーム作り、図書館司書は本の紹介カード作成、介護福祉士は高齢者向けのイベントの企画、農家は珍しい野菜のPR、警察官はSNSのトラブル防止チラシの作成、ツアーコンダクターは日帰り鎌倉旅行の企画・プレゼンテーション、さらには教師は各教科のテスト作成など実に多種多様。それぞれが作った計画書に基づいて、総合の時間などの5時間を使って、7月10日(土)の完成締切を目指して、一生懸命仕事に取り組みました。はじめての仕事体験の汗と努力の賜物の作品は霜月祭で展示する予定です。**



栄養士さん考案の新メニュー



応急処置カード

JRC 3年生 ペットボトルキャップ集め



JRC委員会3年生の皆さん

南千住二中は、JRC(Junior Red Cross = 青少年赤十字)に全校加盟しており、地域清掃やボランティア活動などに取り組んでいます。ペットボトルキャップ集めは、このJRC委員会の活動の一環で、JRCに加入した当初から10年間続けています。各ご家庭や地域の皆さんのご協力が集められたペットボトルキャップは定期的に回収され、計量した後、リサイクル業者へ買い取っていただき、その後「NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付され、途上国の子どもたちの支援活動に利用されます。

今年度は7月8日(木)にJRC委員会3年生の皆さんがこの1年間に集められたペットボトルキャップの回収作業を行いました。その量は、90L袋13個で182kg、キャップ91,000個に上り、この後ポリオ(小児まひ)ワクチンの購入の一部に充当され、貧困に苦しむ子供たちの元へ届けられます。この10年間の活動で、その累計はポリオワクチン200人分以上となり、コツコツと積み重ねられた活動が世界中の子どもたちの命をつなぐ大きな力となっています。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。